



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	田治米鏡二教授記念号の発刊に際して
Description	田治米鏡二の肖像・略歴・業績あり
Citation	北海道大学地球物理学研究報告, 42
Issue Date	1983-10-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/14382
Type	other
File Information	42.pdf





田治米 鏡二 教授

Prof. Kyozi TAZIME

田治米鏡二教授記念号の発刊に際して

地球物理学教室田治米鏡二教授は定年により退職されることになった。当教室に四番目に新設された応用地球物理学講座に着任して以来、研究ならびに教育につくされた教授の退職を記念して、本号を田治米鏡二教授記念号とすることになった。ここに教授の略歴および研究業績を記しておかれわれ後進の参考に資したい。

(編集委員)

田治米鏡二教授の略歴

大正8年6月24日生

昭和12年3月 神奈川県立横浜第二中学校卒

昭和18年9月 第二高等学校卒

昭和21年9月 東京大学理学部地球物理学科卒

昭和23年9月 東京大学大学院特別研究生第一期修了

昭和26年9月 東京大学大学院特別研究生第二期修了

昭和26年10月 秋田大学鉱山学部助教授

昭和31年3月 北海道大学理学部助教授

昭和33年12月 理学博士

昭和34年4月 北海道大学教授理学部地球物理学科第四講座（現応用地球物理学講座）担任

昭和38年6月 アメリカ合衆国へ2カ月間出張

昭和43年1月 中華民国へ3カ月間出張

昭和47年6月 北海道大学教養部長（昭和48年2月まで）

昭和48年4月 北海道大学理学部附属浦河地震観測所長ならびに同学部附属札幌地震観測所長（昭和52年8月まで）

昭和51年4月 北海道大学理学部附属えりも地殻変動観測所長（昭和52年8月まで）

昭和51年5月 北海道大学理学部附属地震予知観測地域センター長（昭和52年8月まで）

昭和52年9月 北海道大学理学部長（任期2年を2期，昭和56年8月まで）

昭和56年4月 日本学術会議第12期会員

昭和58年4月 北海道大学理学部定年により退職

上記の期間中、北海道大学教育学部および工学部講師、帯広畜産大学講師などを兼任または併任した。さらに、長年日本学術会議地球物理学研究連絡委員を務めるとともに、地震学会委員長、物理探鉱技術協会（現物理探査学会）会長などを歴任した。

田治米鏡二先生は、新設間もない北海道大学理学部地球物理学科の第四講座(昭和38年省令により応用地球物理学講座となる)に助教授として着任し、その直後から実質的に講座を担当することとなった。そして、そこに独特の自由闊達な学問的気風をつくり上げた。若き学徒に、終始一貫して講座の枠にこだわらない自由な研究を奨励したのである。自らも、この二十有余年、絶えず研究面で牽引的な役割を果たしてきた。そして、その間先生は、北海道大学の研究者育成に飽き足りず、ほとぼしる研究の情熱を他大学の多数の若き学徒にも注いだ。そして、研究とは志を同じくする者との厳しい討論と熾烈な戦いを通じて磨き上げられるものであることを、彼等実践をもって示した。その場として、地震探鉱実験グループがあった。このグループの結成と、その二十有余年にわたる活力ある存在は、一人先生の力のみでなく、多くの優れた先達の努力や大学外の多くの人々、いろいろな組織の協力などに負うところも大であるが、若き学徒を絶えずこのグループに引き付けていたのは、先生の絶えざる研究への情熱と、地道な努力の積み重ね、そしてそれを次々と結実させていった研究業績であった。

先生の論文には、他の研究者の論文に類を見ない独特の気風がある。それは、自らデータを取り、自らそれに理論づけを行うことによるのみ論文を完成させていったことから生まれたものである。他人のとったデータで物を言うことがなかった。理論づけをするにしても出来合いで間に合わせることはなかった。他人が先鞭をつけた理屈が仮りに参照される段になっても、必ずその理屈を原点までさかづぼって考察し、改めてその理屈を再構築した。そしてその過程の中に必ず新しいものを発見し、自らとったデータの上にそれを結実させた。

先生は学問の流行を追わなかった。自らとったデータに感動し、そのデータが秘める自然の仕組みを追究することに研究の意義を見出していた。ひたむきに追求するという行為が淡淡と続いた。先生の業績はかくして築かれていったのである。そうした先生の日常的な研究態度は、即、周りの者への生きた教育となった。既存の知識を伝授することのみが教育である考えなかった先生の、真の教育者像を、活字となった論文だけから推察することはできない。論文を作り出す過程の中に先生の優れた教育理念が秘められていたのである。

(編集委員・岡田広 記)

田治米鏡二教授の業績

著 書

弾性波による地盤調査法
(1977), 東京楨書店.

編 著

地震波の生成・伝搬に関する実験
地震探鉱実験グループ

論文

1. 電磁地震計の電圧感度の簡単な測定法
地震, 3 (1951), 66-70.
2. “一様回転を得る装置”の改良について
地震, 4 (1951), 23-35.
3. 地下に一層ある場合の弾性波初動の入射角について
物理探鉱, 5 (1952), 75-81.
4. 地震探鉱器の基礎的研究—動線輪型地震計の motional impedance について
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 8 (1952), 13-46.
5. 地震探鉱器の基礎的研究 其の2
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 9 (1953), 7-24.
6. 地震探鉱器の基礎的研究 (3)
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 10 (1953), 1-13.
7. 地震探鉱器の基礎的研究 (4)
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 10 (1953), 15-21.
8. 電磁地震計に於ける機械量と電気量との間の交換について
地震, 6 (1953), 96-115.
9. 弾性波実験の一例, 金子徹一と共著
物理探鉱, 7 (1954), 179-185.
10. 小発破の際に生じた地震波群の性質
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 13 (1955), 21-38.
11. 電磁地震記録器のゆれ始めの問題
物理探鉱, 8 (1955), 9-15.
12. 計測上より見た地震波初動の振巾及び周期
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 14 (1955), 29-39.
13. 表層の厚さに関する $\frac{1}{4}$ 波長法則の適合性 (1)
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 15 (1956), 18-26.
14. 表層の厚さに関する $\frac{1}{4}$ 波長法則の適合性 (2)
秋田大学鉱山学部地下資源開発研究所報告, 15 (1956), 42-45.
15. 分散波 Rayleigh 波群の性質と地盤の強弱との関係
物理探鉱, 9 (1956), 58-62.
16. Wave Groups Generated by a Very Small Explosion
J. Phys. Earth., 4 (1956), 113-126.
17. 弾性波実験の一例 (2)
物理探鉱, 9 (1956), 126-128.

18. Amplification Factor of the Electromagnetic Recorder Having no Electric Amplifier.
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII(Geophysics), 1
(1957), 55-67.
19. Minimum Group Velocity, Maximum Amplitudes and Quarter Wave-length Law.
J. Phys. Earth., 5 (1957), 43-50.
20. Relations between Charge Amounts and Periods in Resulting Seismic Wave Groups.
J. Phys. Earth., 5 (1952), 51-59.
21. Doubly Stratified Layers における Love 波の周波数特性
物理探鉱, **10** (1952), 49-55.
22. 初動の走時図に現れる震源の深さの影響 (2)
物理探鉱, **10** (1957), 179-183.
23. 2層構造における Love 波の振幅分布
地震, **11** (1958), 20-28.
24. 初動の走時図に現れる震源の深さの影響 (3), 音田功と共著
物理探鉱, **11** (1958), 1-3.
25. 屈折法の解析に対する萩原の方法の拡張, 武内俊昭と共著
物理探鉱, **11** (1958), 44-46.
26. 地表付近のS波速度の測定, 岡田広と共著
物理探鉱, **11** (1958), 65-70.
27. Love-waves in Stratified Three Layers, 岡田広と共著
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII(Geophysics), 1
(1958), 115-138.
28. 1957年の夏に下川鉱山で行った地震探鉱の解析結果, 高田雄次と共著
北大地球物理学研究報告, **6** (1958), 25-34.
29. 1958年の夏に下川鉱山で行った地震探鉱の解析結果, 東山俊博・岡田広と共著
北大地球物理学研究報告, **6** (1958), 35-47.
30. Ray-theoretical Construction of Dispersive RAYLEIGH Waves
J. Phys. Earth., 6 (1958), 81-89.
31. Transition from Solid to Liquid Superficial Waves in a Plate
J. Phys. Earth., 6 (1958), 91-99.
32. Love-waves in Stratified Three Layers (Continue), 岡田広と共著
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics), 1
(1959), 139-161.
33. Transition from Dispersive RAYLEIGH Waves to Sound Waves in a Layer over a Half
Space Absolutely Rigid

- Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics),1*
(1959), 163–179.
34. 恵岱別ダムの模型に対する動的試験の際に観測した地動の加速度, 岡田広・武内俊昭・東山俊博と共著
北大地球物理学研究報告, 7 (1960), 55–61.
35. 兵庫県山東町に於いて行った比抵抗による地下水探査, 音田功・清野政明・堀田宏と共著
北大地球物理学研究報告, 8 (1961), 1–9.
36. 静内ダム及び下静内ダム予定地での弾性波探査, 岡田広・浜田和郎・窪田将と共著
北大地球物理学研究報告, 8 (1961), 11–35.
37. Complex Roots in the Characteristic Equation for Love-type Waves in a Layer over a Half Space
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics),1
(1960), 283–300.
38. Transition from Liquid-solid to Liquid-liquid Surface Waves
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics),1
(1960), 301–314.
39. 固体-流体波から流体-流体波への移り変り, 浜田和郎と共著
地震, 14 (1961), 63–76.
40. 弾性波の反射および屈折係数
地震, 14 (1961), 77–88.
41. $M^{(1)}$ 波と $M^{(2)}$ 波との分類
地震, 14 (1961), 138–149.
42. 固体-流体波から流体-流体波への移り変り (2), 浜田和郎と共著
地震, 14 (1961), 243–253.
43. Ray-theoretical Construction of Dispersive RAYLEIGH Waves
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics),1
(1961), 347–365.
44. 反射及び屈折係数による displacement potential の表示
地震, 15 (1962), 59–66.
45. 固体-流体波から流体-流体波への移り変り (3), 浜田和郎と共著
地震, 15 (1962), 86–94.
46. Dispersive RAYLEIGH Waves in a Layer Overlying a Half Space
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics),1
(1962), 449–458.
47. 弾性波探査による真駒内団地の水源調査, 堀田宏・岡田広と共著

- 北大地球物理学研究報告, 10 (1963), 119-134.
48. Comparison of Wave Groups Observed on Short and Long Spans at the Same Locality,
岡田広と共著
Geophysical Papers Dedicated to Prof. Kenzo Sassa (1963), 523-531.
49. 新潟県見附市郊外の小発破実験場で行なった屈折法による地下探査
北大地球物理学研究報告, 11 (1963), 113-168.
50. 八郎潟北部の採石予定地で行なった弾性波探査, 岡田広・浜田和郎と共著
北大地球物理学研究報告, 12 (1964), 1-14.
51. 分散性レーレー波の生成及び消滅に関する模型実験, 田中夕美子と共著
北大地球物理学研究報告, 13 (1965), 127-134.
52. 白老川中流御料橋付近の地下探査, 浜田和郎・小柳敏郎・河田英・早川福利と共著
北大地球物理学研究報告, 13 (1965), 135-153.
53. 双川ダム予定地で行なった弾性波探査 岡田広と共著
北大地球物理学研究報告, 13 (1965), 155-164.
54. A Compact Expression for Displacement of Dispersive RAYLEIGH Wave in a Layer
Overlying a Half Space
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics), 2
(1965), 149-164.
55. Energies of Elastic Surface-waves
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics), 2
(1965), 165-182.
56. 浅層反射法, 田望・森谷武男・小川逸郎と共著
北大地球物理学研究報告, 14 (1965), 81-93.
57. 物探用回転成分地震計の試作, 田望と共著
北大地球物理学研究報告, 14 (1965), 95-104.
58. 高速度層の厚さを知るための模型実験 (1), 高橋満弥と共著
北大地球物理学研究報告, 14 (1965), 105-116.
59. 群速度が0になる LOVE 波の周波数
地震, 18 (1965), 82-93.
60. 特性方程式の複素根
地震, 18 (1965), 133-141.
61. 有限長の正弦波振源から生じる LOVE 波
地震, 18 (1965), 181-194.
62. 弾性波による釧路市の地盤調査, 岡田広・小柳敏郎と共著
北大地球物理学研究報告, 15 (1966), 91-110.

63. Model Seismology on Characteristics of Surface Waves Generated from a Sinusoidal Source of a Finite Duration , 本山満雄と共著
Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VII (Geophysics),2
(1966), 309-319.
64. パルス振源によるラブ波群の生成, 鈴木貞臣と共著
地震, **19** (1966), 69-80.
65. ラブ波の特性方程式を等角写像で表わす方法
地震, **19** (1966), 135-146.
66. 土質工学における物理探査の問題点
地すべり, **3** (1967), 27-33.
67. 屈折法による厚岸大橋予定地の基盤探査, 城戸欽也・麻場邦彦・小山義之と共著
物理探査, **20** (1967), 101-110.
68. ラブ波の特性方程式を等角写像で表わす方法 (2), 岡田広と共著
地震, **20** (1967), 153-163.
69. ミラーシ層のはぎとり, 鈴木貞臣と共著
物理探査, **20** (1967), 177-183.
70. 表面波の模型実験の結果に関する 2, 3 の考察, 森明臣と共著
北大地球物理学研究報告, **19** (1968), 81-91.
71. ラブ波の特性方程式を等角写像で表わす方法 (3), 岡田広と共著
地震, **21** (1968), 1-13.
72. 弾性波による札幌市およびその周辺の地盤調査, 岡田広・本山満雄・鈴木貞臣・前川博と共著
北海道防災会議研究報告 (1967), 19-38.
73. 屈折法による厚岸大橋予定地の基盤探査 (続)
物理探査, **21** (1968), 193-198.
74. 青森県長泥橋の橋脚の振動測定と地盤調査, 田望・森谷武男・五十嵐亨・本山満雄・米田征弘・長能正武と共著
物理探査, **22** (1969), 34-42.
75. 青森県長泥橋の橋脚の振動測定と地盤調査 (続), 吉井敏尅・五十嵐亨と共著
北大地球物理学研究報告, **21** (1969), 133-150.
76. ラブ波の特性方程式を等角写像で表わす方法 (4), 吉井敏尅と共著
地震, **22** (1969), 20-28.
77. 弾性波による苫小牧市の地盤調査, 本山満雄と共著
北海道防災会議研究報告 (1969), 27-46.
78. 札幌市周辺の雑微動の測定, 坂尻直巳・五十嵐亨と共著

- 北海道防災会議研究報告 (1969), 47-65.
79. 北海道鷹泊貯水池周辺の比抵抗概査, 岡田広・前川博・五十嵐亨・高波鉄夫・森谷武男と
共著
地すべり, **6** (1970), 11-17.
80. Explosion Seismic Observations in the Matsushiro Earthquake Swarm Area, 浅野周
三・市川金徳・岡田広・窪田将・鈴木宏芳・野越三雄・渡辺偉夫・瀬谷清・乗富一雄
と共著
Special Report No.5, Geological Survey of Japan, (1969), 1-162.
81. 弾性波による函館市の地盤調査, 本山満雄・前川博と共著
北海道防災会議研究報告 (1969), 17-65.
82. 厚岸町ピリカウタで行なった比抵抗法による地下探査, 村瀬勉と共著
地すべり, **6** (1970), 10-13.
83. 余市フゴッペ洞窟の振動測定, 五十嵐亨・笹谷努・殿内啓司・長能正武と共著
北大地球物理学研究報告, **24** (1970), 189-196.
84. 自由表面における反射の際の弾性波のエネルギー流量の収支
北大地球物理学研究報告, **25** (1971), 259-298.
85. 弾性波による浦河町の地盤調査, 前川博・広田知保・殿内啓司と共著
北海道防災会議研究報告 (1971), 38-70.
86. 直交曲線座標の変位ポテンシャル
地震, **24** (1971), 79-94.
87. 線状振源から発生するレーレー波のエネルギー
地震, **24** (1971), 165-167.
88. 函館工専の地盤, 殿内啓司と共著
物理探鉱, **24** (1971), 182-187.
89. 公団札幌-小樽道路滝の沢工事区地すべりの調査, 石井亮二・長尾俊雄・渡辺浩三と共著
地すべり, **8** (1971), 12-20.
90. 物理探査の結果と地質との対比の哲学
物理探鉱, **25** (1972), 53-55.
91. 相沼地すべり地域の比抵抗探査, 岡田広・中尾欣四郎と共著
災害科学総合シンポジウム論文集 (1972), 135-138.
92. 小樽駅前の速度検層, 岡田広と共著
災害科学総合シンポジウム論文集 (1972), 269-272.
93. 札幌市豊平区西岡における弾性波検層, 山内史郎・浅野紳一郎・浜谷望・山本明夫と共著
物理探鉱, **28** (1975), 156-164.
94. 浅層反射記録の解析法

物理探鉱, **29** (1976), 183-188.

95. 札幌市豊平区清田における弾性波検層, 浅野紳一郎・栗原努・富田ゆきしと共著

物理探鉱, **29** (1976), 373-378.

96. Wave Front and its Travel Time in a Weathered Layer

J. Phys. Earth., **24** (1976), 227-235.

97. 板および棒の中のP波の速度, 浅野紳一郎と共著

地震, **30** (1977), 1-10.